(39)

氏名（生年月日）　柯（カ）　賢（ケン）　忠（チユウ）
本　　籍
学位の種類　医学博士
学位授与の番号　乙第 226号
学位授与の日付　昭和51年3月19日
学位授与の要件　学位規則第5条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目　**Flexible 気管支ファイバースコープによる原発性肺癌の内視鏡所見と炎症性所見の比較検討**
論文審査委員　（主査）教授　竹本　忠良
（副査）教授　滝沢　敬夫，教授　肥田野　信

論文内容の要旨

研究目的

フレキシブル気管支ファイバースコープ（以下 FBS）の改良による可視範囲の増大とX線 TV 透視下細胞診の併用により，FBS検査は癌の早期診断に不可欠な診断法になつている．しかし，早期肺癌または小気管支に発生した癌の FBS 所見は炎症性所見と酷似しているため，両者の鑑別診断について検討するとともに，FBS検査で発見した肺癌の内視鏡所見の詳細と発生部位との関係を調べ，肺癌組織の推定診断の可能性について研究した．

研究対象および研究方法

1969年8月より1974年5月までの台北市立仁愛医院における FBS 検査 350例のうち，手術，剖検で肺癌と確診されたもの，明らかな生検，細胞診陽性例 計107症例について，肺癌と炎症の FBS 所見の比較検討を行なつた．次に，手術，剖検，生検により組織型確実な65例について，内視鏡所見と病理組織学的変化との関連性を検討した．

研究成績

1）壊死性腫瘤以外の腫瘤をみるときには肺癌と炎症との鑑別は容易である．

2）炎症では広汎で，概して均等な所見がみられたのに対し，癌浸潤性病変は限局性であるほか，各種に FBS所見を綜合判定すれば両者の鑑別は可能である．

3）結核性肉芽は表面平滑，均等で，著明な発赤腫脹をともなつているが，癌浸潤では発赤の随伴が一定せず，硬い粗糙な粘膜や小結節が存在する．

4）粘膜面の凹凸不正は in situ では鑑別が困難である．

5）扁平上皮癌と腺癌のときの内腔狭窄は，概して炎症浮腫による狭窄と鑑別がつきやすいが，未分化癌特に小細胞未分化癌では往々鑑別困難である．

6）扁平上皮癌では表層細胞の脱落が多く，粘膜表面がザラザラとなる．また一方は深く浸潤されているにもかかわらず，内腔粘膜の一部にはなお正常粘膜をみる．しかし腺癌のときは輪状に全周をおかす傾向がある．

7）腺癌においては，FBS でみえる部位は往々主病巣より離れているか，あるいは浸潤してきた部位であるので，転移リンパ節による気管支の変化がみられる．そのため上皮を被つていることが多く，腫瘤の近位側は平滑である．しかし腫瘤内部をみると，閉塞部では起伏ある粗糙面を呈するが，扁平上皮癌のような激しい起伏ではない．

8）小細胞未分化癌の内視鏡所見は全周にわたつて大きく腫れあがつた硬い隆起のため，極度に狭窄化した内腔がみられ，その表面は平滑で，炎症性浮腫に酷似する．

結論

以上，困難ななかにも，癌浸潤による FBS 所見と炎症性所見との間には差異があり，鑑別は可能である．しかし最終的には病理組織学的診断が必要で，そのため発生部位に順応した太さの brush wire の使いわけによるより十分な標本採取が望ましい．

論 文 審 査 の 要 旨

本論文は気管支ファイバースコープの普及度の低い台湾において，多数の肺癌症例について，肺癌の内視鏡所見と炎症の同所見とを比較検討したものである．その結果癌浸潤による所見と炎症性所見とかなりの程度まで鑑別が可能であることを示した．

学術上価値ある論文と認める．

主論文公表誌

Flexible 気管支ファイバースコープによる原発性肺癌の内視鏡所見と炎症性所見の比較検討．

日本気管食道科学会会報　第27巻　第1号　10～25頁（1975）

副論文公表誌

1）胃カルチノイドの4症例．

胃と腸　**10**（5）657～662（1975）

2）柔軟性支気管線維鏡検査之初歩報告（フレキシブル気管支ファイバースコープ検査法，予報）

中華民国外科医学会雑誌　**3**（4）150～155（1970）

3）腐蝕性食道狭窄症之外科療法（腐蝕性食道狭窄症の外科療法）

台湾医学会雑誌　**61**（1）27～45（1962）

4）胸部外傷．

台湾医学会雑誌　**61**（1）1～26（1962）

5）肺癌の気管支線維鏡診断．

癌の臨床　**21**（12）1119～1121（1975）